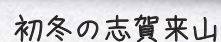


ふるさと志賀来の今とこれからの暮らしのススメ

vol. 6

2019年2月15日
志賀来地区
ふるさと交流実行委員会

発行部数：452 部



きれいな赤い実みつけた



真っ青な空と雪道



志賀来山の朝も美しいね



写真撮影：加藤 茂

との思いも持っております。

「ふるさとに戻り暮らせたなら」と思っている方々の思いを実現していくためにはどうしたらいいのか。当委員会としてできることを形にしていきたいと考えておりますので、どうか今まで以上に多くの皆様からご意見を賜りますようお願い致します。

A portrait of a middle-aged man with short black hair and glasses, wearing a dark suit, white shirt, and a dark tie with a light-colored pattern. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The background is a plain, light color.

志賀来地区ふるさと交流事業
実行委員会
会長 内記 和彦

皆様には「ふるさと交流事業」にご支援ご協力を頂き誠にありがとうございます。ご支援ありがとうございます。「志賀来ふ」もおかげさまで第6号となりました。毎回、多くの感想をお送り頂いております。「志賀来ふ」は、ふるさと再見といった点から大切な役割を果たしているなと感じております。

ふるさと交流事業は、ふるさとを離れて暮らしている方々とふるさとで暮らす人々との交流を図るとともに、町外で暮らしている方々に「ふるさと」に戻って暮らして頂けたらと思います。

志賀来心 vol.6 2019年2月15日発行

発行者／志賀来地区ふさと交流実行委員会

事務局／西和賀町ふるさと振興課 若手県和賀郡西和賀町川尻 40-40-71 TEL: 0197-82-2111

志賀来地区からのお知らせ

news!

雪あかり in にしわが

2019年2月9日(土)
夕方各地区で開催!



志賀来ふの感想紹介

◆ 昭和 32 年生れの私共。6 月 29 日、30 日、貸切りバスにて（東京発着、横浜コース）にて同窓会旅行を 15 名参加にて実施いたしました。

天候にも恵まれ皆様と楽しい1泊2日の旅行でした。都合上参加できなかった方、残念でしたが参加された方、お疲れ様でした。ありがとうございました。ふるさと交流実行委員会の皆様、ご苦労様です。これからも大自然の志賀来情報お願いします。(鍵飯出身 柿澤 宏治さん)

懐かしい卒業写真



昭和
43年



本情報誌は、地域の出身者や所縁のある方にお送りしています。まだ届いていない方がおりましたら、
ご住所をお知らせください。バックナンバー含め、お送りいたします！

志賀来の『食』

長く引き継がれてきたものから、新しく生まれたものまで、ふるさと志賀来の「食」をお届け！

西和賀の料理の紹介や、レシピを！というご要望にお応えして始まった『食』のコーナー。
3回目は、本格珈琲にこだわる「忙中閑（ぼうちゅうかん）」を紹介します！

ぼうちゅうかん

珈琲 忙中閑



珈琲 忙中閑

住所：西和賀町沢内前郷 1-15
電話：090-6681-3059
時間：11:00～21:00
定休：火曜日



佐々木拓也さん【前郷出身】

大学生時代、神保町の老舗珈琲店「カフェ・トロワバグ」に行き、以来、珈琲にハマる。学業の傍ら珈琲修行。就職の後 1998 年に店をオープンさせた。小さい頃から書道を習い、どこにも属さない一匹狼として書道活動している。友人の写真家の写真展の看板として書いた書が、書家「梅津鳴上」先生の目に留まって声をかけられたことも。目標は軽妙洒脱、当意即妙な「さかきぼくざん 榊莫山」。今後は書道ライブなど活動を本格始動する予定。

店内入ると、ふわっと香ばしい珈琲の香り。書道の得意なマスター佐々木さんが書いた書が展示された店内、一枚板で固く重い、プビンガのバーカウンター。手作りの温かい空間に迷い込めるお店です。基本的に紺屋町にある珈琲の名店で焙煎した豆を使っていますが、店内で焙煎することもあります。

こだわりのメニューは『フレンチ珈琲＆自家製チーズケーキ』。生豆を熟成させたオールドビーンズをフレンチローストした豆を使い、まろやかさと豆の甘みを出すため挽き方は粗挽きに。ネルを使いドリップして淹れた珈琲は、まろやかな口当たりの後にガツンと来る苦味。直後に口に入れたチーズケーキの甘さと奏でる最強のハーモニー。自家製チーズケーキは作り立てよりも何日か寝かせることで程よく熟成された深い味わいになるそう。



する農業の形 コネクトの取り組み

昨今、農業に限らず国内産業全般において、担い手不足が顕著にみられる。起因する少子高齢化は国内の人口減少を生み、生産年齢人口の減少や遊休農地や空き家等遊休資産の増大、特にも農業においては、基幹的農業従事者の減少は喫緊の課題である。

西和賀町に目をむけると、一時的に増加した遊休農地は、農業者の努力によって減少しており、これまでの水稲を中心とした経営から、大豆、蕎麦、花卉、野菜、特用林産物等を導入した複合経営を可能としたことも、ひとつの理由として挙げられる。

しかし、この先輩諸氏による努力の結果を、この先10年、20年と継続することは可能だろうか。再生された農地を維持・管理し続けることは可能だろうか。何よりも農業従事者が増加する確かな見込みが考えにくい中で、地域の農業振興を担うことが出来るだろうか。そんな、漠然としていて、しかし、統計上それらが喫緊の課題であることは確

年4月現在）。生産した農産物は系統出荷を中心とし、西和賀町のふるさと納税の返礼品としても人気がある。

「これまで家族で農作業をしてきて、1人、2人で仕事をするところが専らだったところと比較すると、どんなに忙しくとも仲間と役割分担できることがメリットのひとつ。」との事。

「正直なところ、今7人で仕事をしていますが、繁閑問わずもう少し人材がいると、農作物の管理に手がかけると感じます。」と、現在の課題を提起したが、「私たちの法人の課題を一人で抱えるのではなく、仲間と一緒に共有して、課題解決の糸口を共にみつけていく過程が大事なことを考えています。」ということからも、前向きな姿勢で取り組んでいる。

農事組合法人アースコネクトだけでなく、町内にはまだまだ多くの農業者がいる。これら多くの農業者がいる限り、町内から少しずつ遊休農地が減少していくことだろう。



志賀来の人

志賀来で頑張る人にお話を聞きます。

大石 信夫さん(71)
カヤ子さん(70)

【新町在住】

山菜加工会社「彩の国」代表



山菜加工会社 「彩の国」代表



特集

仲間と『共有』 農業組合法人アート



農事組合法人アースコネクト

住所：岩手県和賀郡西和賀町沢内字太田2地割116番地1

電話：0197-72-8662 Fax：0197-72-8663

メール：famers.company-earth.connect@indigo.plala.or.jp

かな中、平成28年から水田の基盤整備事業をきっかけとして、当時60代3名と30代4名の有志が集い、協議を重ね、「農事組合法人アースコネクト」設立に至る。

経営品目は、水稻、大豆、蕎麦、りんどう、農地は、それぞれの世帯が代々受け継いできた農地と借地をあわせて60ha（平成30

ここ西和賀の基幹産業は農業だ。それなのになぜその農産物を加工する会社がないのか？農業の町なのに農産加工の会社がないのは不思議だと思い、今から8年前、山菜加工の会社を立ち上げた。

信夫さんは、ここ西和賀町では商品を販売していない。「ここに卸し、さばける量は少ない。もっと需要の多い町に、多く卸せばそれなりの収入になるし、もっと営業して販路を見出せば安定した通年営業可能な仕事になる。」と考えている。

今、都会の人が求めているのは、「山菜」。この土地ならではの「山菜」を利用しない手はない。ぜんまい、わらび、うど、しどけ、これらを加工食品として冷蔵庫にストックし、常に出荷できる体制を作ればまだまだ可能性は広がるだろう。この西和賀は、町から離れている。でも、宅急便を利用すればその問題も解決できるのだ。信夫さんはそれを「宅急便農業」と名付け、現在は仙台にも2ヶ所販売先を実現している。年明けに売

り出すものに、雪中キャベツと雪中白菜がある。畑の野菜を雪が降る直前に収穫（このタイミングが難しい）し、そして雪の中に貯蔵する。寒さがあると、野菜たちは凍らないように自然に甘みとなる成分を出すのだという。その性質を利用して「雪中ブランド」として販売している。

今は、奥さん含め5人で「彩の国」を経営している。仕入れ、諸経費など引いた金額で、お給料を払っていて、楽ではないが、赤字もだしていない。

ご夫婦の今後の目標は、ホームページを立ち上げて、ネット販売を行うこと。現在進行中とのことだ。「ネット販売」「宅急便農業」を売りに、山菜プラス加工品、安心安全な野菜の販売の他、自前の果物の商品化も検討中。春になったら、畑に山菜を植え、季節ごとに出荷・販売と、信夫さんの頭の中のイメージやアイディアは、次から次へと湧いてくる。「また、どんどん忙しくなりそうだ。」カヤ子さんのちよつぷり、あきれ顔が印象的で可笑しかった。



こんな
ところに!?
志賀来入

米沢 仲四郎さん

【太田出身】
茨城県東海村在住

理学博士
(公財) 日本国際問題研究所
主任研究員
(公財) 日本適合性認定協会
試験所審査員

志賀来を離れて活躍する出身者に、今の生活を聞きます!



▲ウィーンの王宮で開催されたCTBTの国際会議で講演をする筆者(2015年)

信頼性のある放射能分析のために

私は昭和二十四年沢内村太田で生まれ、そこで育ちました。盛岡工業高校の工業化学科を卒業後、私は日本原子力研究所に就職し、それ以来半世紀にわたって原研、国際原子力機関(IAEA)、及び日本国際問題研究所(国問研)で放射能分析の仕事をしてきました。原研では研究用原子炉を利用する放射化分析の研究を行い、「中性子即発ガンマ線分析」という新しい分析法を開発しました。IAEAではガンマ線分析法の研究を行いました。二〇〇九年からは国問研で包括的核実験禁止条約(CTBT)の下、核実験の監視に関する仕事をしています。二〇一一年福島原発事故以降、私はCTBTの仕事の傍ら、事故によって汚染した放射性セシウム分析の信頼性を確保するための活動も行ってきました。

試験所が信頼性のある分析をする能力があることを示す方法として、国際規格の認定取得があります。試験所がこの規格の要求事項を満足して認定を得ると、分析能力が高いこと

が国際的に認識されます。原発事故以後、この認定を取得する放射能分析試験所が増え、私は二〇一二年から日本適合性認定協会の審査員としてこの認定審査を行ってきました。

さらに、分析技術者のガンマ線分析能力を高めるために、私は二〇一三年から茨城県東海村の放射線計測協会でガンマ線分析の研修も行ってきました。沢内を出て半世紀、私はこれまで一貫して放射能分析の仕事をしてきました。原発事故後、我が国では研究用原子炉の運転が長期間停止してしまい、放射線・放射能の教育活動が低下してしまいました。これによって、今後放射能分析の研究者・技術者不足が危惧されています。我々の回りには天然放射性核種ばかりでなく、原子力活動と核実験によって作られた多量の人工放射性核種が存在しているため、それらを避けて通るわけには行きません。私は体が続く限り、放射能分析の仕事を続けたいと思っています。

志賀来の 若いチカラ

志賀来に住んで頑張る若手の様子をお届けします。

私が農業をするようになって早20年近くなります。きっかけは父と祖父が次々と他界したことでした。農地を守っていかうと決意し、高校を卒業後、県立農業大学校で農業を学んできました。

就農して初めて、学校で学んだことはほんの一部でしかないということに気付かされました。そんな中、太田下巾地区の基盤整備事業を機に4軒の農家が合同で農事組合法人アースコネクトを立ち上げました。現在7人で構成しており、総作付面積60haを超えました。7人の仲間たちと一緒に西和賀のこれからを担っていく子供



高橋 裕之さん

【太田在住】

昭和56年生まれ、岩手県立農業大学校卒業後、就農。
家族はお母さん、妻、4人のお子さんのパパでもある。

達が「ここに住みたい」「将来戻ってきたい」と思えるような美しい農村風景をこの太田に残していけるよう頑張りたいと思います。

一人でなく、仲間と共に。 就農9年目。

西和賀町沢内地区に帰郷し、就農して9年。就農当初は休耕地が町内にいくつか存在していましたが、町内の農業者の努力の結果、少しずつ減少しています。米に限らず、大豆や蕎麦といった畑作物の作付けを可能とした結果であると思っています。

しかし、町内の人口減少と少子高齢化は進み、農業に限らず産業全体の担い手不足がみられます。農業における担い手不足が進む結果生じることは、農業者一人当たりの耕作面積の増加と農地の集積から集約に変化すること、遊休農地の増加を招く懸念があるということ。町内においては、専業・兼業農家が日々努めておりますが、今後考えうる様々な課題や問題と、そ

れらに付随する原因を探り、解決の糸口を、一人でなく、仲間と共に導きだしていきたいと思っています。

高橋 真悟さん

【太田在住】

昭和54年生まれ、大学を卒業後、宮城県の医療機関の会社に就職するもリターンし、就農。現在は両親、妻、中学生1人、小学生2人の7人家族。



農業とわたし。